



Amir Tsarfati 師 2018年 8月 10日公開

まず、ユダヤ人

(2018年7月18日 大阪国際交流センターにて講演)

ありがとうございます。こんにちは。

今夜、ここにすることが出来て、本当に祝福されています。

こちらからは、皆さんの顔がよく見えませんが、皆さんからはよく見えていることを願います。今日、この大阪で、これを聖徒の皆さんと分かち合えることを本当に嬉しく思います。第一部で数時間前にここでお話したのは、「エゼキエルの時」というメッセージでした。メッセージの内容は、時事問題、およびイエスの時代から今までの間に、神が大きく動かれたことに関してお伝えしました。

正直に言いますと、イスラエルに関する話題というのは、あまりにも多くのクリスチャンによって、あまりにも大きく誤解されていると思います。

しかしそれは、2000年前にも多くの人たちが心を騒がせたことでした。

パウロがローマの人たちに手紙を書いた時、——パウロは、一度も会ったことがない、一度も訪れたことのない教会の人たちに手紙を書きました。彼らは、パウロのことを知りませんでした。彼は、誰のことも知りませんでした。しかし彼は、ローマの中に教会があることを、彼は聞いていました。そして、いつも彼はローマに行きたいと思っていました。

ローマ皇帝が支配していたローマ帝国の時代は、誰もがローマを見たいと思っていました。そこで、彼は手紙を書きました。彼が手紙を書いた教会というのは、恐らく、ユダヤ人と異邦人からなる教会だったと思います。2000年前、イエスが来られた頃は、教会の99%がユダヤ人でした。

そこで問題は、ユダヤ人がイエスを信じたらどうするのか？

それから今、イエスを信じた異邦人たちをどうするのか？

その人たちは、どうすれば良いのか？

割礼を受けさせるべきなのか？

安息日を守らなければならないのか？

モーセの律法を守らなければならないのか？

シナゴークと呼ぶべきか、教会と呼ぶべきか、どうすれば良いのか？

パウロは、ローマの町のことを考えていました。

当時、「すべての道はローマに繋がる」と言われていました。

そして彼は、ローマにいるローマ人に手紙を書くには、100%教義でなければならない、と信じていました。彼は、その中のだれも知らなかったのです。Aさんは、Bさんと仲良くしなければならないとか、Cさんは、Dさんのうわさ話を止めなければならないとか、状況的な問題は、彼は何も知りませんでした。ですから彼は、特定の誰かに挨拶したり、そういったことはしていません。

彼は、一つの事を理解していました。

これは、ユダヤ人と非ユダヤ人が混ざり合った集団である、ということです。

そして彼らは、世界中で最も重要な町の中にいるということ、そしてそこから、世界中の全ての道に繋がっているということ。

ですからパウロは、神の御言葉の中で最も大事なことを彼らに教えなければならない、と悟っていました。

当時のローマの人たちは、執念深い皇帝のために、非常に多忙でした。

当時の皇帝とは、ネロでした。

日本人観光客のことは、私もよく知っていますが、彼らに「ローマで一番訪れたい場所はどこか？」と聞けば、コロッセウムだと答えます。ただ、このコロッセウムという名は、建物とは一切関係がないということを、多くの人が知りません。その建物の名前というのは、半円ではなく、全円の演劇場という意味です。それは、ネロの死後、建てられました。ただ、コロッセウムという名前は、ネロが死ぬ以前からありました。

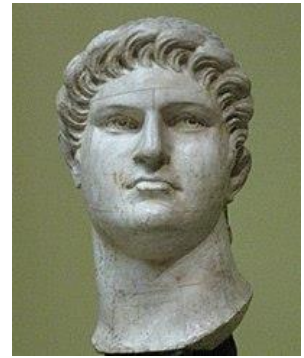
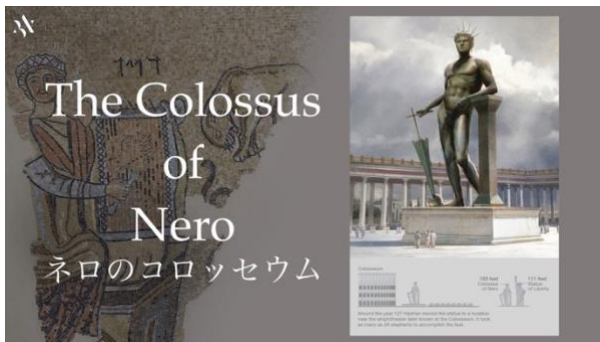


Figure 1 ネロの頭像



これは、今日のコロッセウムのすぐ外に建っている、大きな銅像ですが、この名前が、ネロのコロッセウムと呼ばれています。これは松明を除いた、自由の女神と同じ高さで、頭の高さは同じです。ネロが、あの銅像を造りたいと思ったのは、別の場所にある、この神々の息子、ローズのコロッセウムについて、彼が知ったからでした。

ところで、この頭の王冠や、手とか、女性のような見た目から、アメリカにあるものを想像しませんか？

コロッセウムを造っていた石の一つに、昔、看板が付けられていたのが見付き、その看板が取れたあと、それを留めていた釘の穴が、まだ石の中に残っていました。

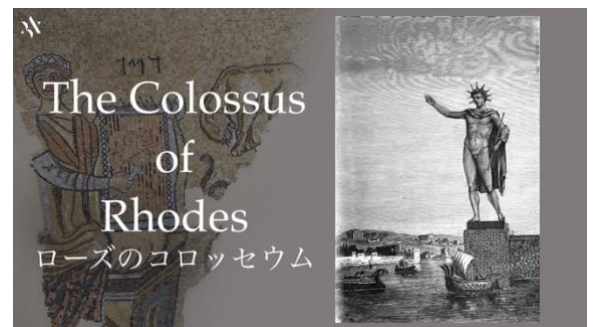


Figure 2 大阪国際交流センターホールの壁の時計

この時計を見てください。これは、釘で壁に打ち付けられています。

あの金色の部品が全部落ちたことを想像してみてください。

そうすると、釘の跡だけが見えると思います。そこから、この時計がどんな形をしていたか、だいたい想像がつくと思います。そして、その石の中にあつた穴を読み取ってみると、その建物という

のは、戦争の略奪品から造られたことが分かりました。

そして、そこから少し目を横に向けると、そこにはティトスの勝利の凱旋門があつて、その戦争がどういふ戦争であつたかが分かります。



彼がエルサレムを破壊し、彼は、神殿から全ての宝を奪って行きました。メノラーもそこに含まれていました。神殿から取られたメノラーが、最後に目撃されたのはローマでした。ですから、ローマのコロッセウムは、戦争の略奪品として、エルサレムの神殿

Figure 3 ローマ・ティトス凱旋門のレリーフ 略奪品のメノラー等が刻まれている

から奪ったお金や宝物で造られたのです。ですから、それらは私たちのものであるはずなのです。

ですから、使徒パウロは、ローマを訪れる前にその書簡を書いています。

使徒の働き 2章 10節、ペテロが演説した時、何千人という人がキリストを受け入れました。聖書には、その中にはユダヤ人もいれば、改宗者もいた、とあります。

10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また、滞在中のローマ人たちで、

(使徒の働き 2:10)

ハイ！

そこで、なぜパウロはもっと早くにローマに行かなかったのかと思われるかと思いますが、彼はローマ書 15章 20~22節で、そのことについて触れています。

20 このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。

21 それは、こう書いてあるとおりです。

「彼のことを伝えられなかった人々が見るようになり、

聞いたことのなかった人々が悟るようになる。」(イザヤ書 52:15)

22 そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを幾度も妨げられましたが、

(ローマ 15:20~22)

パウロは、本当にローマに行きたかったのですが、優秀な弟子、優秀な使徒として、彼は自分の願望ではなく、自分の召しを優先しました。

そしてやがて、彼はローマに行きます。そして彼は、二度逮捕されています。その時、彼は非常に積極的に、たくさんの実を結びました。彼は、最初の逮捕の時、エペソ、コロサイ、ピリピ、ピレモンを執筆し、そして二度目の逮捕の時に第二テモテへの手紙を執筆しました。

これで、全体像を皆さんにお伝えしました。



以上がイントロダクションでした。そこで次に、核心に移ります。

なぜ、パウロはローマ人への手紙の中で、ユダヤ人について何度も何度も告げているのか？最初の1章の初めの方から、2章、8章、9章、10章、11章、15章と、ずっと彼は何度も何度もイスラエルについて語っています。

ローマ人への手紙 1章 16節は、有名な箇所ですけれども、

16 わたしは福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

(ローマ 1:16)

この箇所は、日本語では、「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも…」となっていますが、原語の方では、

「まずユダヤ人、それからギリシャ人に…」

という風になっています。ですから、

「まずユダヤ人、それからギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

ということです。

ですから、皆さんの聖書の中には、「まず」という言葉が欠けているのですか？

Yes! はい。(笑)

それだけではなく、パウロとバルナバがアンテオケを訪れた時、彼らはシナゴークでは歓迎されませんでした。パウロは、ユダヤ人たちがイエスのメッセージを好まないことは知っていました。それは、メシアは神ではあり得ない、と彼らが信じていたからです。彼らは、人を神だと呼ぶことは冒瀆である、と信じていました。だから彼らは、イエスを拒絶したのです。だからパウロ自身も、クリスチャンたちを迫害したのです。ですから、パウロ自身は「元・教会を迫害していた者」として、彼らがどういう風に考えるか、はっきりと知っていました。しかし、彼の目から鱗が落ちたため、彼の顔から覆いを取り除かれたために、今やパウロは、自分がどれほど間違っていたか、そして彼らがどれほど盲目であるかも理解しました。そこで彼は決心して、彼が異邦人に対する使徒であるのと同じくらいに、まず、ユダヤ人のところに行かなければならないということを理解していました。そこで、パウロとバルナバがアンテオケに行った時、ユダヤ人たちはこの二人を追い出しました。

46 そこでパウロとバルナバは、はっきりとこう宣言した。

「神のことは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。…」

(使徒の働き 13:46a)

パウロは、イエス・キリストの福音は、まず、ユダヤ人にもたらされなければならない、ということを理解していました。イエスご自身がこのように言われています。

8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、**エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」**

(使徒の働き 1:8)

「どうして大阪が先ではないのか？」

と言われるかも知れません。

「どうして熊本が次じゃないの？」

とか。

神は、「それはエルサレムから始まる」と決められたのです。

そして、ユダヤ、サマリヤ、そしてそこから、世界の四隅です。

面白いですね。

そこで人は、

「それでは、良い事だけが全て、まずユダヤ人のところに行くのか？」
 と思うかも知れませんが、それは違います。

ここも同じで、
 「まずユダヤ

9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行うすべての者の上に下り、

ここも
 「まずユダヤ

10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、善を行うすべての者の上にあります。

11 神はえこひいきなどはないからです。

(ローマ 2:9~11)

ここが、鍵となっています。つまり、神は、皆さんよりも彼らの方を愛しておられるということではありません。

しかし、神が決められたことを行うための順番は、まず、ユダヤ人でなければならなかったのです。だからといって、ユダヤ人が優れているとか、もっと聖いというわけでもなく、彼らは、神のご計画の中の特別な役割を享受しますが、それは、他の世のためです。

神は、彼らを使って、唯一の神の存在を、世界中に伝えられました。

神は、彼らを使って、神の御言葉を全世界に届けられました。

神は、彼らを使って、神の御子を世界に送られました。

ですから神は、全世界のために彼らを使われ、そのために、神は彼らから始められるのです。だから、まず、ユダヤ人なのです。

アモス書 3章 1~2 節をご覧ください。

1 イスラエルの子らよ。主があなたがた、すなわちわたしがエジプトの地から連れ上ったすべての氏族について言った、このことばを聞け。

2 わたしは地上のすべての部族の中から、あなたがただけを選び出した。
 それゆえ、わたしはあなたがたのすべての咎をあなたがたに報いる。

(アモス 3:1~2)

良い事だけではありません。

裁きも、彼らからです。

ですから、どうか皆さん、理解しておいてください。

イスラエルが、神の目に特別であるのは、皆さんの犠牲の上にあるものではありません。

そのことによって、皆さんが特別ではなくなるということでもありません。

ガラテヤ人への手紙 3章 27~28 節には、このように書いてあります。

27 バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

28 ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリ

スト・イエスにあつて、一つだからです。

(ガラテヤ 3:27~28)

ですから、私たちに今、分かっていることは、私たちがいったんイエスを信じれば、もう、この間には何の違いもありません。

携拳が起これば、私たちのどちら共が連れ去られます。

この時は、まずユダヤ人とは言いません。

信じる者が取り去られます。

しかしながら、神は昔も今も、霊的なことを非ユダヤ人と分かち合うために、ユダヤ人を使われました。

いろいろな人から、

「どうして世界中を訪れて、神の御言葉を教えることがそんなに大事なのですか？」

と聞かれますが、それは、ユダヤ人の視点から、神がこの4000年の間に私の国に対してされたことを理解して教えることが出来るからです。

私は何も、特別に神学的な事を教えているわけではなく、私自身が、神の奇跡によって守られた国の一員なのです。人の考えられる、あらゆる可能性や観点、確率など、そういったもので見るなら、イスラエルはとっくの昔になくなっていたはずです。

故国から200年以上離れていた国で、国にしる、言語にしても、それが復活した所はありません。しかし私たちは、2000年の時を生き残りました。それが属する人々によって、2000年以上使われていなかった言語で、復活したものは、他にありません。

死海文書を発見した時、それを検証してみたら、その聖書のヘブル語と、こんにち、私たちが使っている聖書のヘブル語と、全く同じでした。



教義！(DOCTRINE!)

これが、異邦人たちに神の御心とか、神のやり方を理解させるものです。

神は、皆さんに知っていて欲しいと願っておられます。

神は、誰かを選ばれたのなら、ただ使うだけ使って、見捨てるようなことはされません。たとえ、その選ばれた人が、躓いて倒れたとしても、神はその人を回復させてくださいます。そして、共にいて、その手を取ってくださいます。そこで、

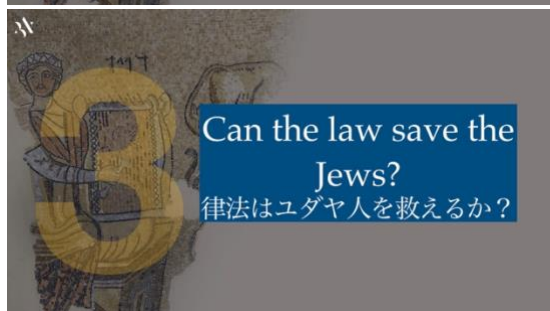


第一章は、

「福音には救いを得させる力がある。まずユダヤ人から！」



第二章は、
「呪いであれ祝福であれ、まずユダヤ人！」



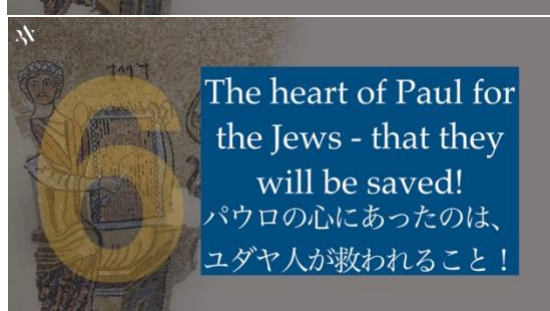
第四章、五章、六章では、
「律法はユダヤ人を救えるか？」
もちろん、救えません！



なぜ彼は、異邦人にユダヤ人の律法について書いたのか？それは、ローマの教会の中に、ユダヤ人の信者もいたからです。そして、九章の中で、彼らに父祖たちが与えられ、彼らに律法が与えられ、彼らに神の知恵が与えられました。そして、彼らの中から、イエスが来られました。

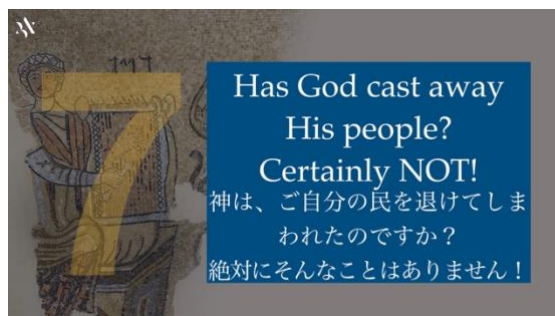


10章で、パウロは、彼の同胞のために悲しみました。それは、彼らが自己義認を打ち立てようとしていたからです。彼は、義の初めも終わりもイエスである、ということ、彼らに理解してほしいと願いました。彼らはイエスを拒絶して、自分たちで良い行いをしようとしていました。



そして10章でパウロは、「私の願いは、彼らが救われることだ」と言っています。

11章では、このような質問を投げかけて、答えています。



そして、彼はこのように言っています。

ローマ書 11 章 25 節です。

- 25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、
- 26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。

(ローマ 11:25~26a)



ですから、ずっと長い間、神はイスラエルに集中して来られました。

そしてずっと長い間、他の世界の人たちは、神には全く興味を持っていませんでした。

そして神は、なんとなく、そのことを無視しておられました。そこへ、パウロがはるばるローマまでやって来ました。パウロは、ローマの人々に非常に興味深いことを言っています。彼は基本的に、ローマの人々に次のように言っています。

「過去の時代、人々が好きなように神々を拝んできたが、神はその事を見過ごしておられた。」

それは、アテネでの話です。彼が、はっきりとそう言っている箇所を探します。

その箇所は、ここにいる日本の人たちに対しても、多くのことを告げていると私は思います。使徒の働き 17 章 30 節で、彼は次のように告げています。

- 30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。

- 31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」

(使徒の働き 17:30~31)

神は、旧約聖書の時代、ずっとイスラエルを見ておられました。

そこへイエスが来られ、言い訳が全く出来なくなりました。

罪は罪。

死は死。

贖いは贖い。

赦しは赦しです。

イエスは、全世界のために来られました。

バプテスマのヨハネがイエスを見た時、彼は

「見よ。イスラエルの罪を取り除く神の小羊。」

とは言っていません。

- 29 …「見よ。世の罪を取り除く神の小羊。…」

(ヨハネ 1:29b)

と彼は言いました。

ですから神は、物凄い形で、ユダヤ人が心を頑なにしているのを見られ、神は、彼らを盲目にされました。そして、イエス・キリストの救いのメッセージを、全世界にもたらされました。それから、パウロは言います。

「異邦人の時が終わる日が来る。」

もう、秒読みが始まっています。私たちが、この世から取り除かれると、異邦人の時というのは終わります。

そして、ここに残る異邦人というのは、信じないことを選んだ異邦人です。

それから神は、その注目をイスラエルに戻されます。神は、彼らのことを忘れてはおられません。彼らのつまずきを通して、彼らのねたみを引き起こすために、救いが異邦人に与えられました。そして、その彼らのつまずきが、世の富となるのなら、彼らが受け入れられることが、死からのよみがえりでなくて何でしょう、と彼は言っています（ローマ 11:11～12 参照）。

神は、その注目をイスラエルに戻されますが、残念なことに、イスラエルがあまりにも頑ななため、彼らにはイエスが必要である、ということを経験するためには、大きな患難が必要になります。

世の中が激しくさばかれる時、イスラエルは彼ら自身の大患難を通ります。

それは、「ヤコブの苦難の時」と呼ばれます。その「ヤコブの苦難」というのは、彼らが反キリストを拒絶するために起こります。そして、反キリストが彼らを迫害します。

聖書の中には、彼らが 1260 日間荒野に逃げる、と書かれています。

イザヤ書 62 章には、イエスが戻ってこられ、そして、彼らを再び故国に戻される、と書かれています。ボツラから戻す、と。ボツラというのは、こんにちのペトラからさほど遠くない地域です。

ですから、彼らはそこに逃げ込み、その町の岩の間に隠れるのかも知れません。

なぜなら、イザヤは“セラ”という名前を記していて、“セラ”とはヘブル語で“岩”、ペトラはギリシャ語で“岩”という意味です。

そして、イスラエルの全家が救われます。国家的な救いを約束されているのは、イスラエルだけです。

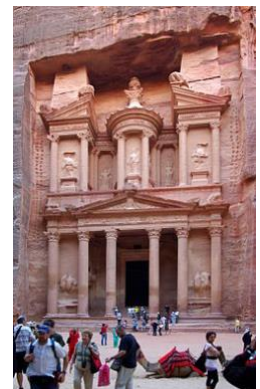


Figure 4 ペトラのエル・カズネ

さて、神のご計画において、彼らがどれほど重要であるか、その理由をたくさん見て来ました。

皆さんは彼らを通して、神のお考えを理解します。神が、彼らとともにされることを通して、皆さんは、あとどれくらいの時間が残っているかを理解します。



ローマ人への手紙の中で、最後に彼は、非常に興味深いことを告げています。ローマ書 15 章です。

15 章は、彼がエルサレムに戻る道中で、その章の 25～27 節で、彼は非常に面白いことを言っています。

25 ですが、今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムに行こうとしています。

26 それは、マケドニアとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために贖金することにしたからです。

27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的なものをもって彼らに奉仕すべきです。

(ローマ 15:25~27)

つまり彼は、異邦人はユダヤ人を憎んではいけないだけでなく、異邦人の信者たちは、霊的なことを私たちに分かち合ってくれたユダヤ人に対して、負い目があるのだと言っています。ですから、ユダヤ人たちが霊的なものを私たちと分かち合ったなら、最低限、異邦人として私たちに出来ることは、物質的なものを、彼らと分かち合うことです。



サタンは、最初の最初から、イスラエルをなくしてしまいたいと思っていました。

一番最初の聖書預言は、イスラエルについてではありませんでした。それは、サタンに対してでした。一番最初に罪が犯された時、蛇と、アダムとエバがいましたが、神はアダムとエバには語らず、まず、蛇に語られました。そして、そこで神は、預言を語られました。

14 …おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。

(創世記 3:14b)

と言われ、それから、

15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、…

ここで、この“子孫”という言葉ですが、英語では“Seed/種”となっています。

敵意を置く。彼は、おまえの頭をかみ砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。

(創世記 3:15)

言い換えれば、サタンの将来が、ここで決定されました。

彼は、敗北しました。

彼は、もう、終わりました。

そこでサタンは、パニックになって、

「その、“女の子孫”とは誰なのか？自分を殺そうとしているのは、誰なんだ？」

「私が先に殺してやる！」

そこでサタンは立ち止まって、

「ちょっと待てよ？女にタネはない！」

「女には卵があるが、男がタネを持っているのだ！」

「ちょっとおかしいぞ！？」

と、彼は考えました。

当然、イエスが「男のタネ」から生まれないことを、彼は知りません。

タネはあり、女はいましたが、男はいませんでした。

14 …見よ。処女がみごもっている。…

(イザヤ 7:14)

サタンは、神のように全知ではありませんから、それがメシアであることを理解出来ませんでした。ですから彼は、

「ここにいる中で、良い人は誰だ？神が愛しているのは、誰なんだ？そいつを殺してしまおう！」

と考え、カインか!? アベルか!?

神は、アベルのささげ物を、カインのものよりも喜んでいる！

よし！アベルを殺してしまおう！

カインがアベルを殺しました。

そこでサタンは、ホッとしました。

そこへ、セツが生まれます。

そして神は、そのご計画を続けて行かれました。

しかし、いったん罪に犯された人間というものは、たった一つの不従順という罪から始まり…創世記6章4節から6節までの時点で、神が

「彼らを造ったことを残念に悔やむ」

と言われるほど、罪が満ちています。人間が考えること、人間のやることなすこと全てが悪に満ちていました。それは、ほんの一つの事から始まりましたが、6章で既に、人間のすること全てが悪だったのです！

そして神は、彼らを滅ぼしたいと思われました。

(ニッコリ微笑んで、日本語で)「しかし、ノア」

「しかし、ノア」これ、覚えておいてください。

皆さんが、神が誰かのことを見放されたと思える時、必ずその時には「しかし、ノア」と思ってください。神の仕事は、人を呪ったり、滅ぼすことではありません。神は、ただ救って、祝福したいと思っておられるのです。そして、その理由を与えられます。

「しかし、ノア」

こうして神は、ノアを通して、また続けて行かれます。

そしてノアを通して、やがてアブラハムが生まれます。

そこでサタンは、

「それなら、全てを混乱させよう！」と考えました。

「アブラム！お前は歳をとっている！」

「サライ、あなたも歳をとっている！」

神は、アブラムとサライに、

「あなたがた二人の間に息子が生まれる。」

と言われました。しかし彼らは、神に聞き従いませんでした。

神に耳を傾けない時、多くの場合、他の誰かに耳を傾けてしまいます。

イシュマエルが生まれました。ちなみに、神はイシュマエルに対しては怒っておられません。神は、イシュマエルを祝福までされました。しかし神は、アブラハムに、とても重要な事を告げられました。女性の中で、ご結婚をされている方、手を挙げていただけますか？高く挙げてください。アブラハムは、神から次のように言われました。

「あなたの妻の言う通りにしなさい。彼女が正しい。」



Figure 5 サンドロ・ボッティチェリ画「受胎告知」

「あなたの女奴隷と、その息子を、ここから追い出さない。」

「わたしは、わたしの計画を、イサクを通して行うからだ。」

そして、イサクが生まれ、その後、イサクから双子が生まれます。

すると、どちらが神のご計画を受け継いでいくのか、物凄く混乱が生じました。人間の考え方では、長男の方が下の者に仕えられるべきですが、神のお考えでは、神はヤコブを選ばれました。ヤコブの後、飢饉が起こって、彼らはエジプトに下って行きました。

そして、彼らが殺してしまおうとしたヨセフでしたが、彼らは、それがヨセフだと気付いた時、彼らは激しく泣きました。しかしヨセフは、彼らを許し、彼らの世話をしました。ヨセフは、イスラエルにとってのイエスの絵です。彼らは彼を拒絶し、そして彼を追い出そうとしましたが、最終的に彼らは、それが彼だったんだと気付きます。そしてその時、彼は、彼らのことを許し、世話をされます。しかしヨセフは死に、彼らはエジプトで400年間奴隷になりました。

そこで神は、モーセを送られました。モーセは、宮殿の中で育ちました。しかし、彼はエジプト人を殺したため、そこから逃げ出します。そこで彼は、ミデヤン人の娘と結婚しました。そして、彼がもう既に80歳になった時、彼は燃えている柴を目にしました。皆さんが80歳で燃えている柴を見たなら、きっと自分の目がおかしくなったんだと思われるでしょう。

そこへ、神は

「モーセ、わたしはあなたを使う」

と言われました。

「私!?私は、どもらないでしゃべることも出来ないのに!?!」

「そのことは、わたしが対処しよう。わたしは、あなたをエジプトに送る。」

「でも、きっと彼らは、私を殺すでしょう。」

「そのことも、わたしは対処しよう。あなたを、パロの所に遣わす。」



「私は何と言えば良いのですか？」

「わたしが対処する。ちなみに、言うておくが、彼はあなたのことを気に入らないよ！それから、あなたの民に『あなたがたの神が、もうすぐあなたがたを救うから』と伝えなさい。」

そこでモーセは、神に尋ねました。

「すみませんが、お名前は何ですか？彼らに言わなければなりませんから。」

14 「わたしは、『わたしはある』という者である。」

(出エジプト記 3:14)

こうしてモーセは、彼らを導き出しました。

80歳です！

しかも、彼が導いていた150万人の民は、毎日毎日文句ばかりを言い、問題だらけでした。

私の息子が11歳の時に、ベニスやミラノやその辺りに行ったのですが、彼は飛行機に乗った瞬間に

「たいくつ〜！ひま〜！何をすれば良いの？疲れた〜！ウチに帰りたい〜！」

「これからベニスに行くんだよ！」

「つまんない！」

たった一人の子どもが文句を言うだけで、私はすでにキレそうだったのに、モーセはそんな人を150万人連れていたので

す！彼らは、食べればこんな風（吐き出す仕草）で、

「エジプトに帰りたい〜っ！あっちの食べ物はすごく良かったのに〜！」

しかしモーセは、彼らを導きました。

彼らの眼前に、海が広がります。

彼らは腕組みして立って、後ろを見ればエジプト人たちが乗っている戦車の砂煙が見えます。

「俺たちを殺すために、ここまで連れて来たのか！」

モーセは水を打ちました。紅海が分かれました。

彼らは、茫然とそれを見て、

「これを全部歩かないといけないのか？」

それでも彼らは、歩きました。

そして、エジプト人たちが海に入ると、水が元に戻りました。

私たちは、エジプト人たちの戦車の車輪を発見したのです。

彼らが渡ったと私たちが信じているまさにその場所に、車輪がありました。これは実話です。私たちがそれを宇宙から検証した時、その地域の紅海の海底に、何を見つけたと思いますか？地橋です。あの地域の海底は、とても深いのです。それを、150万人の人々がどうやって下まで行って渡り、また上るのでしょ？ところが、海底に地橋があったため、彼らは少しだけ下がって渡り、それからまた少しだけ上がることが出来たのです。そして、アマレク人、モアブ人、誰もが彼らを殺そうとしました。歴史を通して、誰もが彼らのことを殺そうとしてきました。

そこで、サタンが気付いたのは、

「彼らを止めることは出来ない！彼らは故国へ戻って来る！イエスが、もうすぐ生まれてくる！それなら、全てのユダヤ人の赤ん坊を殺してしまおう！」

サタンは、彼らが選民であることに気付きました。だから、彼らを一人残らず、皆殺しにしてしまおうと考えました。イエスが、もう既に生まれました。そこでサタンは考えます。

「彼を呼びつけて、話をしよう。そして、彼に自殺をするよう、そそのかそう。」

サタンには、それは出来ませんでした。荒野での誘惑は、イエスには効き目がありませんでした。40日間、サタンは試みしました。40というのは、試練の数です。40年間荒野で、そして、40日間荒野です。それから、イエスのミニストリーのハイライトが近づいた時、サタンはイエスを死なせたくないと思いました。イエスが死ななければ、犠牲はありませんから。シモン・ペテロが

16 「あなたは、生ける神の御子キリストです。」

(マタイ 16:16b)

と言ったとき、イエスは、

17 「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」

(マタイ 16:17b)

「わたしをメシアだと思えるのは、神があなたにそれを明かされたからだ。だから、あなたがたに教えてあげよう…」

21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを



Figure 6 映画「十戒」のシーン

受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

(マタイ 16:21)

そこでペテロは、「ダメです！」と言いました。

22 するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」

(マタイ 16:22)

「そんなことを言っちゃいけない！あなたは死なない！」

23 しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

(マタイ 16:23)

「わたしは、死にたいのだ。わたしは、父なる神の完璧なご計画を成就するために来たのだ。」

24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

(ヨハネ 12:24)

「一粒の麦が地に落ちて死なない限り、よみがえって、実を結ぶことは出来ない。」

そこで、サタンは考えました。

「もし、彼らを打ち負かすことが出来ないのなら、彼らに参加してしまおう。私は、教会の教義の中に潜入して、二つの欺きを広めよう。」



一つ目の欺きは、異邦人たちに伝えよう。

私は世界中を訪れていますが、あまりにも多くの異邦人たちが、ユダヤ人になりたがっています。素晴らしいクリスチャンの人たちが完全に欺かれていて、律法を守り、安息日を守り、ユダヤ人の食事戒律コーシェルを守り始めています。割礼についてはよくわかりませんが。そして彼らは、他の異邦人たちを見て、「それでは足りないよ」と言うかのように見下します。日本でもそうです。日本にも、その道に行っ

まっているクリスチャンたちがいます。これが一つ、第一の欺きです。

もう一つの欺きは、——ところで、エペソ人への手紙 2 章 19 節には、こうあります。

19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

(エペソ 2:19)

それから、エペソ 2 章 11~12 節。

11 ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手によ

る、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、

- 12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。

(エペソ 2:11~12)

ですから、一つ目の欺きは、皆さんがユダヤ人にならなければならないという風に考えさせます。



そして、第二の欺きはさらに大きく、

神は、ユダヤ人を見放された。教会がイスラエルに置き換えられて、今は教会が新しいイスラエルだ、というものです。

「イスラエルは、もう神の民ではない。」

ローマ書 11 章 1~2 節をお読みします。

- 1 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。
- 2 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。

(ローマ 11:1~2)

続いて、17~18 節をお読みします。

- 17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をとともに受けているのだとしたら、
- 18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

(ローマ 11:17~18)

25~26 節

- 25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、
- 26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。
「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。」

(ローマ 11:25~26)

それから、28~29 節

- 28 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。
- 29 神の賜物と召命とは変わることがありません。

(ローマ 11:28~29)

これで私たちは、理解しました。

異邦人は、ユダヤ人になるべきではありません。また同時に、神はイスラエルを見捨ててはられません。異邦人は、ユダヤ人のねたみを引き起こすように召されているということを、理解しなければなりません。

彼らの救いのために祈ってください。

無条件に彼らを愛してください。

彼らが置き換えられたとは、一瞬たりとも考えないでください。

どうして神は、イスラエルを他と聖別されたのでしょうか？

それは、神は、世界に対して見本となる“フラッグシップ”の国が欲しかったのです。彼らではなく、神の対応の見本です。

私達は、神とイスラエルとのねじれ、のたうちまわったラブストーリーと、私達が従っている方のご性質を観察して、学ぶことが出来ます。彼の真実さが見えます。彼の基準が見えます。彼の情熱的な愛、あわれみ、同時に、彼を退け、他の所へ行った時の妬み、御怒りも見ることが出来ます。



もし、彼らがつまずき倒れたからと言って、神が、彼らとの契約を解約し、彼らを捨てられるのなら、神は、皆さんとの約束も守られません。

この中で、完璧な人は、どうぞ手を挙げてください。自分は完璧だと思われる方、手を挙げてください。

皆さんは、ご自分が完璧ではないことを理解されていて、神が「もう、あなたには興味はないよ。」と言われても仕方ない事も理解しておられます。

イスラエルにとっても、それは同じです。

ただ、神の約束を享受しエンジョイする鍵は、従順さと悔い改めです。

皆さんに言うておきます。

イスラエルは、本当に頑なになります。

そして、彼らが悔い改めるのは、自分たちが突き刺した方が、彼らを救いに来られるのを見た時です。ゼカリヤ書 12章 10～11節をお読みします。

10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

(ゼカリヤ 12:10)

このように、神は、彼らが悔い改めるのを目にされます。

人が嘆き悲しむというのは、自分がどれだけ間違っていたかということに、気付いた時です。そして、その愛を受ける資格が、自分にはどれほどないのか、ということに気付いた時です。この2,000年の間、イスラエル国家は本当に頑固で、イエスがメシアではない、と頑なに思い込もうとしていました。

しかし彼らが、イエスに死んでほしいと思ったにもかかわらず、イエスは十字架の上で言われました。

34 …「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

(ルカ 23:34)

そして彼らはまた、自分たちのやりたいことをやり始めました。

彼らは、自分たちの道を行き、そこへ平和と繁栄をもたらし、神殿の丘の上に神殿を建てさせてくれる人を見て、

「これがメシアだ！」と考えます。

世界の指導者！

素晴らしい！

恐らく、その神殿の開館式には、彼がエルサレムへ招待されるでしょう。

そして、それからどうなると思いますか？

彼は、その神殿の中に入り、そして

「自分が神だ！」

と言い始めます。そこでユダヤ人たちは

「何!?!」

となり、——彼らは、人間が神になるとは信じていません。

「2,000年前、同じ理由で、私たちはその人を拒絶したのだ。」

そこで彼は、ユダヤ人たちに敵対し始めます。

そして、ヒトラーがユダヤ人に対して行なったホロコーストなど比べものにならないほどの、大きな迫害が反キリストからユダヤ人に対して行われます。

その間、神は、逃げた者で、獣のしるしを受けていない者たちを守られ、荒野で保護されます。そして最終的には、イエスがこの地に戻って来られた時、主が、彼らを連れ戻されます。その時に、彼らは主を見ます。彼らは、それが自分たちの突き刺した人だということが分かります。そして彼らは主を見て、そこで光が付き、彼らは嘆き悲しみ、そして悔い改めます。

悔い改めが、救いへの鍵です。

皆さんの中で、一度も悔い改めたことのない方は、救われていません。

救いは、「私はイエスを信じます」とか、そういったことを言って、自動的に与えられるものではありません。イエスの公生涯の中で、最初に言われた言葉は、

15 「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」

(マルコ 1:15)

でした。

悔い改めるとは、「あなたには救い主が必要である」と認識することです。

あなたは罪びとであるということを認める。

そして、その罪が、あなたを神から引き離れたということを認識する。

そして、赦しを乞い、イエスの犠牲が、あなたの神へ帰る道を敷いたのだと信じます。

イエスは、人間のタネ（精子）なしに、マリアが身ごもったので、イエスの中に罪はありません。

処女から生まれ、何の罪も犯すことなく死なれました。

死んだ後に、よみがえりました。

イエスの前に、死んだ後よみがえった人は、誰もいません。

「ちょっと待てよ！ラザロが死んだじゃないか!？」

ええ。でも彼はよみがえって、また死にました。

イエスはよみがえられ、まだ生きておられます。

「じゃあ、エリヤはどうなんだ!？」

エリヤは一度も死んでいません。

「エノクはどうなんだ!？」

エノクも一度も死んでいません。

イエスは、死なれ、よみがえって、そして御父の右に座っておられます。

そのイエスが、今日、皆さんに仰っておられます。

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。…

(黙示録 20:6a)

最初によみがえりは、イエスから始まりました。

聖書の中には、彼が初穂だと書いてありますから。

そして、携挙の時によみがえる、全ての聖徒が続きます。

キリストにある死者が、まずはじめによみがえります。

そして、大患難の最後に、大患難の間に死んだ聖徒たちがよみがえります。

これが、第一のよみがえりです。この間というのは、信者だけのものですから、この中に入る人は、幸いです。

それから1,000年があり、ここに第二のよみがえりがあります。かつて生きていた人、全員がよみがえります。

海が死者を吐き出し、全ての人が、白い裁きの御座の前に立たされます。

それから、第二の死が起こります。

信じていない人たちは、どこに投げ込まれますか？

火の池、地獄です。

「でも、彼らはもう死んでいるじゃないか!？」

と皆さんは思われるかも知れませんが、地獄の中では、誰も死ぬことが出来ません。

しかし、イエスから引き離されています。

ですから、そこにはいのちはありません。

イエスが、いのちですから。

これはまるで、生きながら死んでいるようで、それが永遠に続きます。

ですから、最初によみがえりにあずかった人は、第二の死には加わりません。

もし死ねば、死からよみがえり、そして永遠に生きています。

ですから今夜、皆さんが、ご自分の救いについて定かでないのなら、聖書の中には、人は一度死に、それから裁かれると書かれています。

ほとんどの人が、一度は死にます。

どれだけ、シワ取りのボトックス（書記注：ボツリヌス菌から抽出されるたんぱく質を利用した、美容治療術）などをして、どれだけ薬をつぎ込んでも、死にます。どれだけアンチエイジングをしても、資生堂をつけても、あらゆることをしても、聖書には、人は一度死ぬことが定められている、と書かれています。

皆さんには、人生があります。

ですが、それは一瞬の内に終わり得ます。

明日かも知れません。今夜かも知れません。

それがあなたの時間です。

それが、あなたが決めるために与えられた時間です。

第一の復活にあずかって、第二の死を飛ばすか？

それとも、神の御言葉を無視して、お祭り騒ぎをして、最初の復活の時によみがえらなくて、第二の復活でよみがえり、そして、もう一度死ぬことを選ぶのか？

イスラエルの話を通して、真実であられる神の描写が、皆さんの中でイメージできたことを願います。

イスラエルの将来は、悔い改めです。

悔い改め無しに、救いはありません。

祈りましょう。

お父様、ありがとうございます。

イスラエルの話に感謝します。

私たちは今、どうして「まず、ユダヤ人」なのかを理解しました。

あなたが選ばれた国が、あなたの愛、あなたの贖い、あなたの約束を、全世界に示すためです。それと同時に、私たちが他の神々に従った時、あなたがどれだけねたまれるかということも示してくださいました。

たくさん与えられた者は、たくさん求められます。

ですから、お父様、今夜、どうして「まず、ユダヤ人」なのかを理解し、あなたが、あなたのお考えを変えられることはないこと、神の賜物と召命は変わることがないと理解して、もし、今日ここにいる人の中に、まだあなたに降参していない人がいるのなら、何か、その人の中で悔い改めていないこと、または、あなたに栄光を帰すことのない何か、その人の人生の中にあるなら、今夜、どうかその人の心を、あなたが掴んでくださいますように。そして、核心まで揺り動かしてください。その人に、どうか理解させてください。今夜は、救いの夜であるということ、その人に理解させてください。

夜は更け、昼が近づいています。ですから、私たちは、主イエス・キリストを身に着けようではありませんか。そして、肉の欲に心を用いる事のないように。

お父様、ありがとうございます。

あなたと、あなたの御言葉を祝福します。

あなたの、イスラエルに対する誠実に感謝します。彼らは、まだ生きています。

イスラエルの人たちが、まだここにいるということ、それは神のみわざに違いありません。

この祈りを、最後、皆さんの上にアロンの祝福を宣言して、終わりたいと思いますので、どうかご起立ください。最初に、ヘブル語でお祈りし、その後、日本語でお祈りします。神が、アロンに対して、イスラエルの子どもたちを祝福せよと命じられた同じ祝福を、皆さんの上に宣言します。

	ヴェイシェメラハー	アドナイ	イエヴァーレフハー			
	וְיִשְׁמְרֶךָ	יְהוָה	יְבָרְכֶךָ			
	..(主が)あなたを守られますように	主が	あなたを祝福し	24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。		
ヴィーフネッカー	エーレーハー	パーナーヴ	アドナイ	ヤーエール		
וְיִתְנֶה	אֱלֹהֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יֵאָר		
..(主が)あなたを恵まれますように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	照らし		
				25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。		
シャーローム	レハー	ヴェヤーセーム	エーレーハー	パーナーヴ	アドナイ	イッサー
שְׁלוֹם	לְךָ	וַיְשִׁם	אֱלֹהֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יִשָּׂא
平安を	あなたに	(主が)賜るよう	あなたに(向けて)	御顔を	主が	上げて
						26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

※ 連続して発音する場合は以下

イエヴァーレフハー アドナイ ヴェイシェメラハー
 ヤーエール アドナイ パーナーヴ エーレーハー ヴィーフネッカー
 イッサー アドナイ パーナーヴ エーレーハー ヴェヤーセーム レハー シャーローム

イエスの御名によって、お祈りします。アーメン。

ありがとうございます。God bless you!

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

ネロ : Wikipedia 「ネロ」

大阪国際交流センターホールの壁の時計 : 動画より

ローマ・ティトス凱旋門のレリーフ。略奪品のメノラー等が刻まれている。: Wikipedia 「エルサレム攻囲戦 (70年)」

ペトラのエル・カズネ : Wikipedia 「ペトラ」

サンドロ・ボッティチェリ (伊) 画「受胎告知」: 1489年頃制作 伊 ウッフイツツィー美術館蔵

映画「十戒」の一シーン : You Tube 「十戒 神の奇跡」